

## 独自触媒で芳香族エステル転移

早大

早稲田大学の山口潤一郎教授らの研究グループは、芳香族エステルのエステル部位を、ほかの芳香族に移動させる反応を開発した。独自で開発したニッケル触媒を用いることで、芳香族エステルを直接エステル化剤として用いることができる。通常、遷移金属触媒を使う反応では、エステル合成には毒性の高い一酸化炭素(CO)を過剰量使用する。有毒ガスがコントロールできない環境でのエステル反応手法として検討される。

研究グループは、市販されているd c y p tやd c p p tと呼ばれる配位子を付けたニッケル触媒を開発した。この触媒を用いるとハロゲンとエステル骨格を置換できる。エステル部位がそのまま移動するシンプルな反応だが、実現には適した金属触媒が必要だった。20種類以上の芳香族化合物に、エステル骨格を導入できる。

今後はより高活性な触媒の開発を通して、適用できる化合物の拡大や反応温度の低下を狙う。